

第 105 回日本精神神経学会総会

シンポジウム

## Post-graduate Psychiatric Training in Asia (アジアにおける精神科卒後研修)

コーディネーター 館 農 勝

精神科卒後研修は、若手精神科医の最大の関心事と言える。近年、我が国における卒後研修は、目まぐるしく変化している。2004年4月に、新医師臨床研修制度が開始され、全ての初期研修医が、最低1ヵ月以上の精神科研修を義務付けられた。現行の研修制度では、卒後2年目に最長9ヵ月の精神科研修が可能であり、新制度導入以前の卒後1年目の精神科医とほぼ同等の期間の研修を行うことが可能と考えられる。しかし、本ワークショップの演者の一人である、中野和歌子先生らの調査で、新臨床研修制度で2年間の初期研修を終えた精神科医と、従来の制度で研修した若手精神科医では、若干の意識の違いが存在することが示唆された。将来の進路を決定する時期が徐々に遅くなってきているとの結果も興味深いものであった。

また、2005年には日本精神神経学会専門医制度が導入され、従来、各施設の研修プログラムにより、その習得内容に大きなばらつきがあるとされていた精神科専門研修も大きく変化した。この制度では、後期研修医は精神科専門医制度研修手帳の購入が求められ、そこには経験すべき疾患・治療場面、各疾患における到達目標などが詳細に

記述され、各々の目標に到達しているか否かを指導医に評価してもらいながら研修に励むこととなる。これまで、標準化された専門研修プログラムを欠き、教育は各施設に任せられていた我が国の精神医学は、大きな転換期を迎えているといえる。

世界においても、若手精神科医の教育への関心は高い。世界精神医学会(WPA)は、世界最大の精神科団体であるが、同会は、加盟団体から寄せられた要望に応え、1999年のWPA総会ハンブルク大会から、若手教育プログラムを開催している。3年に1度開催されるWPA総会、および、その間に行われるWPA国際会議では、講義形式の研修に加え、各国の若手精神科医が症例を持ち寄って症例検討会を行ったり、アジア、アフリカ、欧州、北南米などの地域毎にシンポジウム形式で精神科臨床や卒後研修について議論したりと、様々な取り組みが行われている。そこでは、各国の参加者が、自国の精神科研修の現状を報告し、より良い研修制度を目指すために何ができるか、毎回、活発なディスカッションが行われている。

第105回日本精神神経学会総会では、4つの国際ワークショップが企画された。そのテーマの一つに、前年に引き続き、精神科卒後研修が選ばれ、

---

シンポジウム Post-graduate Psychiatric Training in Asia (アジアにおける精神科卒後研修) 座長: Masaru Tateno (Department of Neuropsychiatry, Sapporo Medical University, School of Medicine), Hiroki Ozawa (Division of Neuropsychiatry, Unit of Transrational Medicine Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki University), コーディネーター: Masaru Tateno (Department of Neuropsychiatry, Sapporo Medical University, School of Medicine), Tsuyoshi Akiyama (Kanto Medical Center, NTT EC)

「Post-graduate Psychiatric Training in Asia (アジアにおける精神科卒後研修)」と題したワークショップが開催された。4カ国4名の演者が、各国の卒後研修制度を紹介し、他国から参加した若手精神科医を交え活発な議論が行われた。モンゴルのDr. Bayarmaa Vanchindorjは、近年、急速に整備が進んでいるモンゴルの精神科研修制度を紹介し、現在抱える課題や問題点について論じた。タイの精神科レジデントプログラムは非常に洗練されているが、Dr. Woraphat Ratta-aphaが、最近改訂されたばかりの新プログラムの内容を従来のものと比較しながら詳細に報告した。シンガポールの精神科専門研修は、5年間の連続的

な研修への移行期にある。Dr. Phern-Chern Torが、精神科レジデントおよび精神科医を対象に、現行の研修制度の適切性について調査した研究の結果を紹介し、両者の意識の違いなどを報告した。日本からは、中野和歌子先生（産業医大）がシンポジストとして参加し、我が国における精神科卒後研修の現状を紹介し、精神科経験10年目以内の234名を対象に行ったアンケート調査の結果を報告した。各発表の詳細は、本稿に続く各演者の報告に委ねるが、我が国の研修制度を他国のものと比較することで、その長短を知ることができた貴重なワークショップであった。